

授業コード	科目名	助産学概論 Introduction to Midwifery			担当教員	小西 清美
助 101					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
助産学の基礎となる知識（助産の概念、定義、意義、母子保健の動向や関連する法律・制度等）、および助産師が行うケアを支える理念を学修する。また、助産の基本概念を助産の歴史・文化の変遷からその意義を捉え、今後の助産のあり方や助産師の期待される役割について考察する。						
2. 到達目標						
1. 助産の意義と対象について述べることができる。 2. 助産・助産師に関連する法律を理解する。 3. 保助看法における助産師の身分、業務、義務について理解し、述べることができる。 4. 日本の助産の変遷、母子保健の歴史を述べることができる。 5. 助産実践の基盤が理解できる。						
3. 授業計画と内容						
第1回 ガイダンス、助産の概念、助産の定義・意義 第2回 助産師の職制と業務・責務、助産師の身分、業務 第3回 助産師に求められる能力（課題学習発表） 助産実践に必須のコンピテンシー、助産業務ガイドライン 第4回 助産学を支える理論：母親役割、アタッチメント理論など 第5回 母子保健の歴史、助産の歴史と文化：わが国の産育風俗史 第6回 沖縄の助産師の歴史（仲村） 第7回 日本および外国の助産師教育、これからの助産師の働き方・役割 第8回 まとめ、評価						
4. テキスト・参考文献						
・助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 *この他の参考図書は、随時紹介する。						
5. 準備学習						
・「入学時のお知らせ」の資料において、課題学習の確認をしておくこと。						
6. 成績評価の方法						
レポート課題 20点 期末試験 60点 活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等） 20点 合計 100点						
7. 履修の条件						
特になし						
8. その他						
特になし						

授業コード	科目名	助産ケアと倫理 Midwifery Care and The Ethics			担当教員	小西 清美、金城 隆展						
助 102					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp						
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー							
1	1	前期	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限							
1. 授業の概要												
<p>この科目では、助産倫理の原則等について学習し、アドボカシー、責務と責任、協力、ケアリングといった実践上の倫理的概念・倫理的行動の基準、倫理規定とその意義と活用、倫理的感受性、倫理的意思決定、倫理的意思決定と価値観との関係について理解を深める。特に、近年、倫理学の分野において提唱されているケアの倫理を念頭に置いて、他者をケアするとはどういうことなのか、そもそもケアとは何かを問い直し、医療や助産の臨床場面での助産ケアのあり方について、事例を通して考察する。</p>												
2. 到達目標												
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師の責任と役割を理解し、助産師のあり方を考察できる。</li> <li>2. 倫理的問題・倫理的ジレンマを理解する。</li> <li>3. 周産期における倫理的問題の倫理的アプローチを理解する。</li> <li>4. ケアの倫理およびケアリングの倫理を理解する。</li> <li>5. 女性の倫理的意思決定プロセスと支援を理解する。</li> <li>6. 倫理的問題に関する感受性を高め、助産ケアのあり方を考察できる。</li> </ol>												
3. 授業計画と内容												
<p>第1回 ガイダンス  第2回 助産師の責任と倫理  第3回 倫理的問題－倫理的ジレンマと道徳的苦悩  第4回 倫理的問題のアプローチ：生命倫理とケアリングの倫理  第5回 女性の倫理的意思決定支援  第6回 周産期の生命倫理（1）（金城）  第7回 周産期の生命倫理（2）（金城）  第8回 臨床における倫理的問題に関する助産ケアのあり方（課題演習）</p>												
4. テキスト・参考文献												
<p>テキスト：助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2021.  参考文献：小西恵美子編：看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂  *参考図書については、随時紹介する。</p>												
5. 準備学習												
・事前課題を提示しますので、課題を学習してから授業に望んでください。												
6. 成績評価の方法												
<table border="0"> <tr> <td>レポート課題</td> <td>60 点</td> </tr> <tr> <td>活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）</td> <td>40 点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100 点</td> </tr> </table>							レポート課題	60 点	活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	40 点	合計	100 点
レポート課題	60 点											
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	40 点											
合計	100 点											
7. 履修の条件												
特になし												
8. その他												
特になし												

授業コード	科目名	沖縄のケアリング文化と女性 Okinawa Caring Culture for The Women			担当教員	長嶺絵里子、大城凌子、 永田美和子
助 103					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	新研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
この科目では、ケアリングの概念を理解し、ケアリングの本質や援助の特質について学修する。ケアリングは、人間が生きていく過程のどの段階においても不可欠な普遍的なものであり、文化的背景に根ざしたケアリングは大切である。先輩達が歩んで来た歴史を知り、暮らしの知恵や遊びの工夫などを語れるような支援者であり、対象者がよりよい状態(well being)にあることを支援したいものである。沖縄は常に何らかの権力の支配下に置かれながら、文化や社会を形成してきた歴史的経験を持つ場所である。沖縄の文化・歴史を概観しながら、沖縄のケアリング文化に根ざす女性・家族の力を知り今後のケアの方向を考える。						
2. 到達目標						
1. ケアリングの概念について説明できる。 2. 女性に関連する沖縄の文化・慣習、生活を理解する。 3. 沖縄の歴史的背景とケアリング文化について理解する。 4. 歴史に翻弄されながらも沖縄の共同体を存続させて強く生きる、沖縄の女性について理解を深める。						
3. 授業計画と内容						
第 1 回	オリエンテーション、ケアリングとは、助産実践能力とケアリング				(長嶺)	
第 2 回	沖縄の歴史・文化と女性の生き方〈教育研修〉				(長嶺)	
第 3 回	沖縄の産み・育ての歴史慣習とケアリング				(長嶺)	
第 4 回	沖縄の戦中・戦後の出産と女性をとりまく環境・命宝(ぬちどうたから)				(長嶺)	
第 5 回	戦後の沖縄 ～変わりゆくもの、変わらないもの～				(大城凌子)	
第 6 回	沖縄の文化とケアリング				(永田美和子)	
第 7 回	やんばるの母子支援とケアリング(多職種連携)				(外部講師：喜納すえ子)	
第 8 回	戦後の沖縄「母子をとりまく環境問題(PFOA・PFOS)」				(外部講師：桜井 國俊)	
4. テキスト・参考文献						
特定の教科書は使用しない。毎授業、レジュメ及び関連資料及び関連文献を配布する。講義内容に適した参考文献を随時講義の中で紹介する。						
5. 準備学習						
沖縄の文化や歴史について、日頃から関心をもって新聞・雑誌などを読んでおくこと。						
6. 成績評価の方法						
活動状況(授業へのコミットメント、課題発見、プレゼンテーション等)					20 点	
課題レポート：(1000 字程度)						
①入学前レポート「裸足で逃げる沖縄の夜の街の少女たち」を読み、所感をまとめる					20 点	
②教育研修レポート教育研修をとおしての助産観					10 点	
③講義終了後レポート「沖縄のケアリング文化と女性」からみた助産師の果たす役割について					50 点	
					合計 100 点	
7. 履修の条件						
特になし						
8. その他：						
オムニバス方式での授業である。授業日の詳細は授業時に説明します。						

授業コード	科目名	生殖医学 Reproductive Medicine			担当教員	花城和彦、徳永義光、知念安紹						
助産 104					E-mail	konishi@meio-u.ac.jp(代:小西)						
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー							
1	1	前期	6	新研 419	月曜日 5 限・金曜日 5 限							
1. 授業の概要												
<p>この科目では、1) 生殖のメカニズムと生殖に関連する疾患、2) 生殖補助医療、3) 遺伝と遺伝性疾患：出生前診断・胎児治療・遺伝医学など、助産活動に必要な生殖に関連する基礎的知識ならびに高度な先進医療に関する知識を深める。安全かつ快適な妊娠・出産を提供でき、高度先進医療にも対応できる基礎的能力を修得する。生殖医学と倫理的・社会的問題を概観し、今日の生殖医療の現状と課題（不妊治療、出生前診断、生殖補助医療等）と、それを受ける対象に対する心理・社会的考察を通して助産師の役割について理解を深める。</p>												
2. 到達目標												
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの生殖、発生、先天異常とその原因について理解する。</li> <li>2. 遺伝子治療の最近の進歩と臨床応用について理解する。</li> <li>3. 生殖補助医療の動向を理解する。</li> <li>4. 生殖補助医療における倫理的問題に気づくことができる。</li> <li>5. 生殖補助医療を受ける対象に対する心理・社会的考察を通して助産師の役割を述べることができる。</li> </ol>												
3. 授業計画と内容												
<p>第1回 生殖の解剖生理（花城）  第2回 生殖の病態生理（花城）  第3-4回 生殖補助医療の現状・課題、不妊治療、人工授精、体外受精の実際（徳永）  第5回 周産期の遺伝医療（知念）  第6回 出生前診断（知念）  第7回 遺伝カウンセリング（1）（知念）  第8回 遺伝カウンセリング（2）（知念）  第9回 期末試験</p>												
4. テキスト・参考文献												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・我部山キヨ子他編（2022）：助産学講座2 母子の基礎科学, 医学書院</li> <li>・仁志田博司（2015）：出生と死をめぐる生命倫理-連続と不連続の思想, 医学書院</li> <li>・浅井美智子・柘植あづみ編（2004）：つくられる生殖神話, 制作同人社</li> </ul> <p>*この他の参考図書は、随時紹介する。</p>												
5. 準備学習												
十分な予習と復習を行うこと。												
6. 成績評価の方法												
<table> <tr> <td>期末試験</td> <td>80 点</td> </tr> <tr> <td>活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）</td> <td>20 点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100 点</td> </tr> </table>							期末試験	80 点	活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	20 点	合計	100 点
期末試験	80 点											
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント等）	20 点											
合計	100 点											
7. 履修の条件												
特になし												
8. その他：特になし												

授業コード	科目名	周産期医学 Perinatal Medicine			担当教員	宮里寛奈、知念行子、新田迅、 森實真由美、仲本剛
助 105					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp(代:長嶺)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	前期	6	新研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
この科目では、助産診断・技術を実践する上で必要となる周産期の病態生理について学習する。ハイリスク妊娠・分娩・産褥および周産期の異常、胎児異常の定義、治療、産科手術、産科救急について学習する。また、周産期における医学診断の実際として超音波画像診断、胎児心拍陣痛図を学習する。						
2. 到達目標						
1. 正常妊娠・分娩・産褥の生理を述べることができる。 2. 正常妊娠・分娩・産褥の診察法を理解する。 3. 異常妊娠・分娩・産褥期の診断・治療を理解する。 4. 妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎的と検査法を理解する。 5. 産科手術・救急対応について理解する。						
3. 授業計画と内容						
第 1-2 回					(宮里)	
1) 妊娠成立の機序 妊娠診断 妊娠成立のメカニズム、妊娠と hCG(ヒト絨毛性ゴナドトロピン)						
2) 妊娠中の母体の変化 胎児付属物の構造と機能(胎盤、臍帯、卵膜、羊水) (循環器、呼吸器、血液、消化器、腎泌尿器、代謝・内分泌)						
第 3-4 回目					(知念)	
1) 妊娠初期にみられる異常 妊娠初期に見られる疾患の病態、診断、治療、流産、子宮外妊娠、胎状奇胎、母児間血液型不適合						
2) 胎児胎盤系機能検査						
3) 胎児心拍陣痛図総論胎児心拍陣痛図の判読演習、基線細変動、一過性徐脈など						
第 5-6 回					(仲本)	
1) 異常妊娠：妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、切迫早産、PROM(前期破水)						
2) 合併症妊娠：DM, 甲状腺機能、血液疾患、自己免疫疾患など						
3) 母子の感染症 TORCH 症候群等						
第 7-8 回					(新田)	
1) 正常分娩：分娩の経過 解剖・生理						
2) 分娩の異常、CPD、胎位・胎勢・回旋異常						
第 9-10 回					(森實)	
1) 産科手術(会陰切開縫合術、骨盤位娩出術、吸引娩出術、鉗子娩出術、クリステレル胎児圧出術、 2) 帝王切開術、救急処置の実際(産科的出血の対応)、分娩誘発・促進法						
第 11-12 回					(仲本)	
超音波断層法(妊娠初期・中期・後期)(演習含む)						

第 13-15 回	(仲本)
1) 産褥期の異常と偶発疾患の診断と治療 2) 身体的異常 (産褥期感染症、血栓・塞栓症、産褥後遺症) 3) 会陰縫合術の理解 (演習を含む)	
第 16 回 期末試験	
4. テキスト・参考文献	
武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学 2 (産科編) 第 3 版メジカルビュー メジカルビュー 武谷雄二：プリンシプル産科婦人科学 2 (婦人科編) 第 3 版メジカルビュー メジカルビュー 我部山キヨ子他編「母子の基礎科学」第 5 版 (助産学講座 2) 医学書院 我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期[1]」第 5 版 (助産学講座 6) 医学書院 我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ分娩期・産褥期[2]」第 5 版 (助産学講座 7) 医学書院 堀内成子編「助産診断・技術学Ⅰ」(助産学講座 5) 第 5 版 医学書院	
5. 準備学習	
十分な予習と復習を行い講義に出席すること。	
6. 成績評価の方法	
期末試験	80 点
活動状況(授業態度、授業へのコミットメント)	20 点
合計	100 点
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
・オムニバス方式授業であり、講義日は変動する場合がある。授業日の詳細は授業時に説明する。	

授業コード	科目名	新生児・乳児学 Neonatal and Infant Medicine			担当教員	木里頼子
助 106					E-mail	nagamine@meio-u.ac.jp(代:長嶺)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	新研 417	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
<p>この科目では、新生児のケアを適応生理に基づいて実施できる基礎的能力を修得する。子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を修得する。また、ハイリスク新生児に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を修得する。乳幼児期が人間の発達基礎を培う時期であることを知り、乳児期の発育・発達の特徴に関する知識を修得する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の適応生理について理解する。</li> <li>2. 新生児のフィジカルアセスメントを理解する。</li> <li>3. 新生児の成熟度と適応過程について述べることができる。</li> <li>4. 低出生体重児の生理的特徴について理解する。</li> <li>5. 低出生体重児に特有な病態・治療について理解する。</li> <li>6. 乳児の身体的発育と精神的発達の相互の関連について理解する。</li> <li>7. 新生児の胎外生活への移行期や移行後の助産診断やケアにつなげることができる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
<p>第 1、2 回 新生児の適応生理</p> <p style="padding-left: 40px;">新生児の特徴、生理的適応変化 呼吸器系の生理と診療 内分泌系・代謝系の異常 体温調節と保温 循環器系の基礎と診療 フィジカルアセスメント</p> <p>第 3、4 回 新生児の病態と疾患</p> <p style="padding-left: 40px;">黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療、検査 感染症, 新生児外科疾患</p> <p>第 5、6 回 ハイリスク新生児の概念</p> <p style="padding-left: 40px;">早産・低出生体重児の急性期管理、慢性期管理 ハイリスク児の主要な病態と診療</p> <p>第 7、8 回 乳幼児の発達と健康診査</p> <p style="padding-left: 40px;">身体的発育と精神的発達、こころの発達、運動機能発達、 健康診査について</p> <p>第 9 回 期末試験</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>仁志田博司：新生児学入門(第 4 版)，医学書院      子どもの発達と保育（教育図書）</p> <p>助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期（医学書院）2021 年</p>						
5. 準備学習						
<p>十分な予習と復習を行うこと。</p>						

6. 成績評価の方法	
期末試験	80 点
活動状況(授業態度、授業へのコミットメント)	20 点
合計	100 点
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
特になし	

授業コード	科目名	母子の栄養・薬理学 Maternal and Child Nutrition and Pharmacology			担当教員	中村克徳、潮平英郎、 大田久美子、宮城一菜
助産 107					E-mail	s.oura@meio-u.ac.jp (代:大浦)
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	看研 18	月曜日 5 限・金曜日 5 限	
1. 授業の概要						
<p>母子に関わる栄養学の基礎と薬理学の基礎を修得する。栄養については、助産師として妊産婦・授乳婦や乳幼児の食生活に関する基礎的な知識を習得し、妊娠・授乳期、乳幼児期に必要な栄養指導や食育について学習する。薬理については、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解する。さらに思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される薬について理解する。また、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かについて学習する。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>日本人の食生活の現状と動向について理解する。</li> <li>妊娠・授乳期、乳幼児期の理想的な食生活を理解する。</li> <li>妊娠・授乳期、乳幼児期の栄養指導が説明できる。</li> <li>妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病における栄養指導が説明できる。</li> <li>妊娠・授乳期、乳幼児期に必要な食育が説明できる。</li> <li>薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本を理解する。</li> <li>妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について知識を深める。</li> <li>妊娠中・授乳中の薬物療法について知識を深め、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理性とは何かを考察できる。</li> </ol>						
3. 授業計画と内容						
第 1 回	母子の薬理学					(中村)
	婦人科領域で使用する薬・健康食品・受胎調節実地指導に関する薬事法： (低用量ピル・更年期障害など) 健康食品について					
第 2-3 回	妊娠中の薬物療法	妊婦に頻用される薬剤				(大田)
	授乳中の薬物療法	授乳婦に頻用される薬剤	母乳と薬			
第 4-5 回	薬理学総論 (作用機序・薬物動態等)					(潮平)
	新生児と薬理 母乳育児とアレルギー、母乳育児と感染症					
第 6-9 回	母子の栄養学					(宮城)
	日本人の食生活の現状、栄養と食品に関する基礎的知識					
	妊娠・授乳期、乳幼児期における栄養指導					
	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病における栄養指導					
	妊娠・授乳期、乳幼児期に必要な食育					
第 10 回	期末試験					

4. テキスト・参考文献	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・我部山キヨ子，武谷雄二編：助産学講座 3 基礎助産学(3) 母子の健康科学，医学書院</li> <li>・香川芳子監修，七訂増補食品成分表、女子栄養大学出版部.</li> <li>・厚生統計協会編，厚生 の 指標 増刊 国民衛生の動向 2014/2015 年度，財団法人厚生統計協会</li> <li>・平山宗宏監，母子健康・栄養ハンドブック，医歯薬出版</li> <li>・日本人の食事摂取基準 2015 年版，厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書，第一出版</li> <li>・柳澤正義監修，授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き，母子保健</li> <li>・吉岡充弘 他，系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学，医学書院</li> <li>・伊藤真也，村島温子 編，薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳</li> <li>・林 昌洋，石川 洋一 編，妊娠・授乳とくすり Q&amp;A—安全・適正な薬物治療のために 今これだけは知っておきたい!</li> </ul> <p>※この他の参考図書は，随時紹介する</p>	
5. 準備学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。</li> <li>・事後学習：配布資料を復習する。</li> </ul>	
6. 成績評価の方法	
期末試験	80 点
活動状況（授業態度、授業へのコミットメント）	20 点
合計	100 点
7. 履修の条件	
特になし	
8. その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オムニバス方式での授業である。</li> <li>・シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。</li> </ul>	